

尾瀬高校同窓会報

H.29.3.1

35



編集発行人 井上隆至

群馬県沼田市利根町平川1406
群馬県立尾瀬高等学校同窓会
☎378-0301 ☎0278(56)2310印刷所
コトブキ印刷

同窓会報発刊にあたり

同窓会長 井上隆至



同窓会報第35号の発刊にあたりごあいさつを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍の事とお慶び申し上げます。併せて、同窓会活動に対しましてご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

本校は、昭和37年に群馬県立沼田高等学校武尊分校として開校、昭和43年に群馬県立武尊高等学校として独立。更に平成8年に群馬県立尾瀬高等学校と校名が変更となるなど幾多の変遷を経て55年の歴史を築いてまいりました。

この間、本校で勉学に励まれ卒業された同窓生は、5,300人余りとなりました。皆様のご努力により培われた伝統や歴史等が年毎に豊になる中、皆様が社会でご活躍されている事は、大変喜ばしい限りです。

さて、2016年を思い返して見ますと、リオデジャネイロオリンピックでは、日本選手の活躍があり4年後の東京オリンピックへ夢と希望を膨らませるなど明るいニュースとなりました。一方、世界情勢は、6月末、イギリスが国民投票によって欧州連合(EU)から離脱を決めたこと、11月のアメリカ大統領選挙で、「アメリカ第一主義」を掲げて、保護主義を前面に押し出したドナルド・トランプ候補が当選するなど、グローバリゼーションとナショナリズムの相克が表面化した年であったと思います。

国内では、大きな被害をもたらした熊本地震をはじめ各地で多発した地震や複数台風の上陸による集中豪雨や農作物被害など自然災害が多発しました。自然災害の発生は、地球温暖化が大きく影響しているとも考えられており、その対応が国際社会で急務となっています。11月には国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)がパリで開催され、気候変動抑制に関する多国間協議が行われました。身近なところでは、尾瀬保護財団は、地球温暖化の影響を調べるため、2017年から3年かけて尾瀬国立公園で動植物の分布状況などの大規模調査を行うと報道

しました。

本校では、以前から自然環境の重要性を鑑み、尾瀬国立公園・武尊山・白根山等で自然動植物等の調査や保護活動等を行っております。同窓会では、在校生のこれらの活動を誇りに思っており、今後の更なるご活躍を期待するものです。

私は、2016年7月開催の同窓会総会においてご推挙により会長を務めさせていただくことになりました武尊分校3回生の井上隆至と申します。歴代会長が築かれました伝統や実績等を考えますと責務の重さに身の引きしめる思いが致します。元より浅学非才な私ですが同窓会発展のため努力する所存でございますので皆様のより一層のお力添えを賜りますようお願いを申し上げます。

おわりに、皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。あいなさつと致します。

人と自然と地域とともに

校長 小林 由隆



同窓生の皆様には、平素より本校教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今年度より校長となった小林と申します。よろしくお願い致します。地元利根町に在住しており、幸運にも既に数多くの同窓生との関わりを持っております。その地の利を活かし、これからも誠心誠意頑張りたいと思っています。

尾瀬高校は、現在「人と自然と地域とともに」を合い言葉に、自然豊かなこの地を舞台に、多くの方々とはふれあいながら生徒を育成することを目指しております。その中心となるのは利根片品の方々であり、同窓生であると考えています。実際今年度では、4月の開校記念式典において、平成4年卒でスキーのコンバインド競技で活躍し、日本一になった萩原貴則氏を招き、夢を持ち努力することの大切さ、素晴らしさを講演いただきました。苦労を重ねながら成長を続けた姿に、生徒達は多くの感銘を受けたようです。また尾瀬の玄関口、大清水湿原にて鹿の

食害被害にあった水芭蕉復元のための移植作業に2年生全員で参加しました。地元の環境保護に協力すると共に、身近にどのような問題が起こっているのか、自然に対しどのような関わりが持てるのかを身をもって学習、実践して参りましたが、そのスタッフにも同窓生がたくさんおり、色々と指導していただきました。6月には千葉大学の留学生が本校を訪れ、3年生全員と交流会を行いました。海外の方から見たこの地域の魅力やその開発について、在住者である生徒達と一緒に考えましたが、それを企画立案いただいたのも片品村の方々の計らいによるものです。

今年度末の47名を加え、卒業生が5,322名となりました。一時は学年4クラス規模の学校でしたが、現在は普通科、自然環境科各32名2クラスの定員であります。小さいからこそ一人一人に目が行き届くきめの細かい指導を行っておりますが、この地区の今後の生徒減を考えたとき、入学者数減少はさらに進むものと思われます。しかし、利根片品の方々の切なる要望によって設立した本校は、この地域の活性化、人口減対策になくはならない学校であると考えます。その対策の一つとして、これまであまり関わりの薄かった20代、30代の若い同窓生にも声をかけ、力を借りて本校のPRに努めようと考えています。是非母校のこれからの活動にご支援ご協力をお願い致します。

最後になりますが、今年度をもち退任された萩原重夫同窓会長をはじめとする同窓会本部役員の方々には、これまで長きにわたり深甚なるお力添えをいただき誠にありがとうございました。今後も新たに役員になられた井上同窓会長をはじめとする新同窓会本部役員の方々と尾瀬高校発展のため尽力して参る所存です。引き続きご助言ご声援をいただければ幸いです。

高校時代を振り返って

平成22年度卒業生 小須田 菜 緒

尾瀬高校を卒業して6年が経つ今、こうして尾瀬高校にいるのは不思議な感じがします。というのも、私は今年度の6月から養護教諭として尾瀬高校で働かせていただいております。ほとんど変わっていない学び舎や、高校生だった当時と同じ制服を着ている生徒、私を指導して下さった先生方を見ていると、ふと高校時代を思い出し、まるで高校生に戻ったか

のような心地よい感覚になることがあるのです。

今思い返せば中学3年生の進路選択の頃、私は中学の先生から尾瀬高校ではなく別の高校への進学を勧められていました。しかし、様々な葛藤の末、最終的には自分の意思で尾瀬高校への進学を決めました。この時心に決めたことは「置かれた場所で精一杯頑張る。」ということでした。この決意を胸に尾瀬高校で3年間過ごし、卒業し、現在に至っても自分の選択は間違いではなかったと思うことができます。

その理由として、まず一つ目は部活動で2年半野球部のマネージャーとして活動したことにあります。マネージャーとしての活動は非常に楽しく充実していて、部活に行くために学校に来ていたくらいです。道具の準備や管理をしたり、スコアを書いたり、掃除をしたり、時には部員の話の聞いたり。小さなことでも何かしらの形で野球部の力になればと思いながら活動していました。普段の練習から練習試合、公式戦を重ねて上達していく様子を見て感じたり、試合に勝ったときの嬉しそうな笑顔を見て、時にはスランプに陥った辛さに一緒に向き合い、そのようにして部員の成長を近くで感じられるのが私の喜びでした。そのようなマネージャーとしての活動を通して、私自身も成長できたと感じています。それは、心の面でも考え方の面でも前向きに、強くなれたことです。活動の中で壁にぶつかる「私の何が悪かったのだろうか?」と自分の悪いところだけを考え追い詰めていたのが、野球部のためにと活動した結果、「それでも私にできることは何だろうか?」と一歩進んだ考え方ができるようになっていました。もし尾瀬高校へ来ていなければ、このような素敵な経験はできなかったと思いますし、もしかしたらなんとなく高校生活を送っていたかもしれません。また、現在養護教諭を目指すきっかけになったのも、このマネージャーとしての活動があったからです。

二つ目に、尾瀬高校は私が心に決めていた「置かれた場所で精一杯頑張る」ことを発揮させてくれる学校であったということです。私は、尾瀬高校のいいところは「誰もが輝ける場所」であると思っています。規模は小さいけれど、だからこそ一人ひとりに目が行き届き、先生方は生徒の個性を大切にしながら接してくれます。そして、それぞれの生徒をよく知り、生徒に役割を持たせ発揮させる中で多くの生徒が活躍し、輝ける場所をつくってくれていたと感じています。このことはきっと生徒の自信にもつながっていたのではないのでしょうか。実際に私自身、中学時代はそこまで目立った生徒ではなく、

どちらかといえば目立つようなことをするのは苦手でした。しかし、高校では学級委員や委員会での代表発表など、本来苦手なことを任されたこともあり、苦手なことも乗り切ったことで自分に自信をつけることができたのだと思います。このように、私が尾瀬高校で精一杯頑張り、充実した高校生活を送れたのは、多くの先生方のサポートのおかげであるということが、現在教員という立場で実際に現場に立つ身になり、より一層感じています。

尾瀬高校は今でも変わらず精一杯頑張る人に対して、精一杯のサポートをしてくれる学校です。中学までは自分の力や想いを発揮できなかった人も、尾瀬高校では頑張った分だけ大きく輝けるはずです。これからの尾瀬高生にも、尾瀬高校を選んで間違えなかったと思えるよう、様々なことに挑戦して輝く人になってほしいと願っています。

高校時代を振り返って

平成24年度卒業生 都 丸 美 保

私が尾瀬高校を卒業してから早4年が経とうとしています。私にとって尾瀬高校で過ごした3年間はかけがえのない時間でした。

私は、地元が前橋市なので尾瀬ハートフルホーム・システムを利用し高校に通っていました。最初はホームステイ先の人とうまくやっていけるのか、友達ができるのか不安の方が大きかったように感じます。しかし、そんな不安はすぐになくなり、ホームステイ先の人や友人とも毎日楽しく過ごせました。

私が3年間で一番力を入れて取り組んだことは、理科部の活動です。理科部は、調査研究と交流の2つの柱があり、両方の活動に力を入れて取り組んでいたため、休みがあることのほうが珍しいくらいでした。

調査研究活動では、武尊山や尾瀬など様々なフィールドでの調査活動に参加し、動植物や水質など自然界の知識を習得するよう心がけました。調査が終わった後も自然を楽しむ活動をしたり、仲間や先生方と調査結果について話したり、ときには全く関係ない話をしたりするなど楽しい思い出もあります。研究では尾瀬ヶ原の植生について研究を進め、年に1回開かれる群馬県理科研究発表会で最優秀賞を取ることを目標としていました。研究を進めるには多くの時間と知識が必要になるため、尾瀬の植生に関わる書籍や論文などを読んだり、ディスカッ

ションを通して出された意見や指摘をメモし、これらのことを自分で調べたりすることを意識しました。さらに、1年生の時から学会などで研究発表をさせて頂く機会もあり、発表の仕方や研究結果のまとめ方などを学びました。そして、最終的には最優秀賞を受賞することができました。この間、研究のまとめ方や時間の使い方などいろいろ悩んだ日々もありました。しかし、今思えば忙しく自然環境棟を走り回ったり、毎日パソコンに向かったりするなど、何気ない日常がとても楽しかったように思えます。

交流活動では、地域のイベントやネイチャークラブなど常に参加し、世代を超えて、様々な人と交流することができました。そのため、様々な価値観に触れたりすることでとても勉強になることが多くありました。また、G-necクラブでは会長をやらせていただき、メンバーをまとめることや活動準備、当日の運営など様々なところで大変だと思うことが多くありました。しかし、先生方のサポートや仲間、卒業生などたくさんの人の支えがあったからこそ乗り越えたことだと思います。

尾瀬高校は生徒が少ない学校ですが、それは他の高校よりも生徒数に対し、教師数が多いことにもなると思います。そのため、自分のやりたいこと、挑戦しようとしていることに対して、全力でサポートしてくれる先生方も大勢いると思います。この環境だからこそ、やれることも多いと思います。これは、私自身が身をもって体験したことです。やりたいことがあるのに我慢をしている人、何かを言い訳にしてやらない人、何もやりたいことが見つからない人など様々な人がいると思います。でも、やらなかったら後悔してしまうと思います。この与えられた環境の中で、自分自身でどう活かすのか、無駄にしてしまうのか、どちらを選択しても自分が後悔しない方を選んで欲しいと思います。私は、やらないうで後悔するよりも、やって後悔する方が良いと思います。自分自身で解決できないことは周りにいる友達、先輩、先生、家族が助けてくれます。今、尾瀬高校に通う生徒には、たった一度の高校生活を思う存分楽しんでもらいたいです。また、今から尾瀬高校に進学したいと思う中学生は自分のやりたいことを高校で見つけてほしいです。

私自身卒業生として、尾瀬高校に恩返しができるように何かできればと思っています。今年春から社会人として、尾瀬高校で学んだことを仕事に活かし、若い尾瀬高生に負けないよう自分自身より一層邁進できるように頑張っていきたいと思っています。

平成28年度 事業報告

年 月 日	行 事
28. 7. 15	同窓会総会
29. 1. 20	同窓会・PTA・合同新年会 於 老神温泉 観山荘
29. 3. 1	同窓会報発刊

同 窓 会 会 則

第 1 章 総 則

- 第1条 本会は群馬県立尾瀬高等学校同窓会と称する。事務局は同校内に置く。
- 第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために下の事業を行う。
- 1 母校発展に寄与する事項
 - 2 会員親睦に関する事項
 - 3 その他必要と認める事項
- 第4条 本会会員は、転居その他一身上の都合で異動したとき本会に報告する。

第 2 章 会 員

- 第5条 本会会員は、県立沼田高等学校武尊分校卒業生、県立武尊高等学校卒業生及び県立尾瀬高等学校卒業生をもって組織する。
- 第6条 本校現在の職員は、特別会員となる。但し、退職後会長の特別推薦により特別会員となることができる。
- 第7条 本校の会員たる本分を失ったときは、役員協議のうえ除名することができる。

第 3 章 役員及び会員

- 第8条 本会は下の役員を置く。任期は3年とし、再選を妨げない。
- 1 会 長 1名
 - 2 副会長 4名
 - 3 書 記 2名
 - 4 会 計 2名
 - 5 支部長・副支部長（各支部別、1名ずつ）
 - 6 期別幹事（卒業年度別若干名）

- 7 監 査 2名
- 8 校内幹事（若干名）
- 9 顧 問

第9条 会長は本会を代表し会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその任を代行する。支部長・副支部長は各支部より選出、合議において会務にあたる。期別幹事は卒業年度別により選出、会務にあたる。監査は会計を監査し、総会において報告する。校内幹事は母校教職員より選出、会務を処理する。顧問は会長の諮問に答えるものとする。各役員は会長がこれを委嘱する。

第10条 毎年1回総会を開くものとする。

第 4 章 会 計

- 第11条 本会の経費は、会員の会費及びその他の収入を以てする。
- 第12条 本会の入会金は7,400円とし、卒業時に納入するものとする。
- 第13条 本会の永年会費は5,500円を納入し、蓄積して本会基本金とする。
- 第14条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

- 第15条 本会則に定めなき事項については、役員会の決により会長の承認を以て定める。
- 第16条 慶弔については、別途定める。
- 第17条 本会則は昭和43年9月5日より実施する。

- 昭和50年 4月より入会金1,000円に改正
- 昭和53年 4月より会費（年額）1,440円に改正
- 昭和54年 6月20日会則一部改正
- 昭和62年 6月14日会則一部改正
- 平成元年 6月10日会則一部改正
- 平成6年 5月25日会則一部改正
- 平成8年 5月21日会則一部改正
- 平成9年 6月17日会則一部改正、第12条は平成12年度より適用する。
- 平成16年 6月22日会則一部改正

平成28年度 部活動・検定等報告

部/同好会/検定	大会名 & 結果		
野 球	春季大会 2回戦 0 - 8 関学附	夏季大会 2回戦 2 - 12 渋川	秋季大会 2回戦 1 - 11 伊勢崎清明
ス キ ー	県高校スキー選手権大会 (女子) 大回転 2位 萩原 想 5位 佐藤真子 回転 4位 萩原 想 5位 佐藤真子 クラシカル 3位 入澤華音 フリー 3位 入澤華音 (男子) 大回転 10位 星野壘飛 回転 10位 星野壘飛 13位 星野巨鷹 クラシカル 7位 金子智哉 8位 佐藤一太 9位 高橋海斗 フリー 7位 金子智哉 8位 佐藤一太 9位 高橋海斗	県高校総体スキー大会 (女子) 大回転 3位 萩原 想 5位 佐藤真子 回転 4位 萩原 想 5位 佐藤真子 クラシカル 3位 入澤華音 フリー 3位 入澤華音 学校対抗2位 19点 (男子) 大回転 11位 星野壘飛 15位 星野巨鷹 回転 6位 星野壘飛 11位 星野巨鷹 クラシカル 7位 金子智哉 8位 佐藤一太 9位 高橋海斗 フリー 7位 金子智哉 8位 佐藤一太 9位 高橋海斗	関東高校スキー大会 (女子) 大回転 20位 萩原 想 33位 佐藤真子 回転 18位 萩原想 21位 佐藤真子 フリー 5位 入澤華音 クラシカル 5位 入澤華音 (男子) 大回転 42位 星野壘飛 回転 26位 星野壘飛 61位 星野巨鷹 フリー 8位 金子智哉 40位 高橋海斗 クラシカル 14位 金子智哉 33位 高橋海斗 クラシカル 14位 金子智哉 33位 高橋海斗
	第66回全国高等学校スキー大会 (片品村開催) 大回転 61位 萩原 想 84位 佐藤真子 回転 74位 佐藤真子 クラシカル 85位 入澤華音 フリー 87位 入澤華音 (男子) 回転 65位 星野壘飛 クラシカル 128位 金子智哉 フリー 138位 金子智哉		
ソフトテニス (男子)	高校総体 1回戦 1 - 2 青 翠	インターハイ予選 2回戦 0 - 3 高 高	新人大会 2回戦 0 - 2 中之条
ソフトテニス (女子)	高校総体 1回戦 1 - 2 沼 女	インターハイ予選 1回戦 3 - 0 樹 徳 2回戦 0 - 3 高 商	新人大会 1回戦 0 - 3 市前橋
サッカー	高校総体 1回戦 0 - 17 太田工業	インターハイ予選 1回戦 0 - 22 富岡 選手権予選 2回戦 0 - 20 県立前橋	新人大会 1回戦 0 - 7 西邑楽 (榛名高校と合同チーム)
バレーボール	高校総体 1回戦 0 - 2 県央 インターハイ予選 1回戦 1 - 2 館商工	北毛地区大会 1回戦 0 - 2 渋 女	春高バレー県予選 1回戦 0 - 2 県央 新人大会 1回戦 0 - 2 育英
バスケットボール	高校総体 1回戦 45 - 94 前東 インターハイ予選 1回戦 46 - 93 前橋 WINTERCUP 県1次予選 1回戦 25 - 111 渋川	北毛地区大会 (男子) 1回戦 75 - 28 長野原 2回戦 41 - 115 沼田 北毛地区大会 (女子) リーグ戦 7 - 145 吾妻 リーグ戦 9 - 124 渋女	リーグ戦 35 - 131 青翠 リーグ戦 12 - 171 沼女 新人戦 1回戦 36 - 93 中央中等

平成28年度 部活動・検定等報告

部/同好会/検定	大会名 & 結果		
弓 道 (男子)	高校総体 団体 予選敗退 インターハイ予選 団体 予選敗退	北毛地区大会 団体 予選敗退 茂左衛門地蔵尊奉納弓道大会 個人 第5位 星野航哉 個人 第6位 星野啓介	新人戦 団体 第6位 東日本大会県予選 団体 準優勝(東日本大会出場)
弓 道 (女子)	高校総体 団体 予選敗退 インターハイ予選 団体 予選敗退	北毛地区大会 団体 予選敗退 個人 最優秀新人賞獲得	新人戦 団体 第6位 東日本大会県予選 団体 決勝トーナメント1回戦敗退 (ベスト16) 個人 第5位 小林真実
理 科	第63回群馬県理科研究発表会 高等学校の部(化学) 優秀賞 水圏・気圏における窒素化合物循環について～片品川およびその周辺地域を対象として～ 高等学校の部(生物) 優秀賞 片品川に生息する水生昆虫 ～EPT・多様度・類似度指数を用いた解析～ 武尊山「水源の森」自然林調査 第17報 (ネズミ調査2016) 尾瀬ヶ原ニホンジカ調査 第13報 ～2016年の結果報告～ 武尊山の野鳥の季節変動 高等学校の部(ポスター) 優秀賞 尾瀬国立公園大清水湿原の復元に向けて 武尊山山麓および周辺における地表徘徊性甲虫調査 群馬県内の温泉の泉質と各種温泉に生息する温泉生物の関係 第127回日本森林学会大会高校生ポスター発表 武尊山「水源の森」における地表徘徊性昆虫について 糞から抽出したDNAを用いた野生動物の生息状況の新たな解析方法の検討 日本藻類学会第40回大会 群馬県内の温泉に生息する温泉生物、特に藻類と温泉の性質について 第57回日本植物生理学会高校生生物研究発表会 尾瀬国立公園大清水湿原の復元に向けて		
吹 奏 楽	第58回群馬県吹奏楽コンクール 高校Bの部 銅賞 柳波まつり街かどコンサート NOTTN フェス参加 武尊山レンゲツツジまつり ごったくまつりボランティアフェスタ 利根沼田地区五校祭 北毛地区吹奏楽祭 (その他年間約40回の演奏活動を実施)		
商 研	群馬県高等学校商業競技大会電卓競技 出場		
英 検	2級(1名)／準2級(4名)／3級(1名) ※28年度第1回、第2回結果		
漢 検	準2級(1名)／3級(7名)／5級(1名) ※28年度第1回、第2回結果		
商 検	全商珠算電卓実務検定1級(5名)／全商ビジネス文書実務検定1級(2名) 全商情報処理検定1級(1名)		
家庭クラブ	2016片品村収穫祭参加 利根町在住「一人暮らしの高齢者とのふれあい交流・いちいの会」参加 利根沼田5校による清掃活動 「片品絹遺産」調査 かかあ天下-ぐんまの絹物語-in片品に参加し小学生に伝承活動 調査内容及び家庭クラブ活動を利根沼田町村議会議員さんに発表		
G-necクラブ	第20回ボランティア・スピリット賞 北関東信越ブロック コミュニティ賞		
そ の 他	「群馬県高校対抗税金クイズ大会」出場 生物多様性アクション大賞2016 セブン-イレブン記念財団賞 「日光白根山のシラネアオイ群落の保護・復元活動」 第9回群馬銀行環境財団教育賞「奨励賞」		